



東京ではたくさんさんの選択肢があり、物も遊ぶ場所も溢れている反面、アトリエに籠って制作をして、ギャラリで発表するという生活に窮屈さを感じ、勝さんは悶々としていたという。そんな時、別府に来て驚いたのが、まちの人との距離の近さや親しみやすさだった。ア

パートで制作をしていますが、地域の人たちが差し入れを持って訪ねて来たり、行事に誘ってくれたりした。「ここだったら、日常生活の延長上として美術を考えられるんじゃないかなと思っただけです」。芸術祭があり、アーティストとしての活動できる環境があるというのも、判

「ここには特別な「日常」がある。」

断材料になったという。

これまで積極的に地域の行事に参加してきた勝さん。最近では児童館で美術の先生をしたり、お祭りの手伝いをしたりと、ひっぱりだこだ。絵の注文を受けることも増えてきた。制作をしながら、別府の昔の話を聞いたたり、人との出会いにつながることも多いという。「作品をきっかけに人と人が繋がったり、集まったりする。それがすごく面白いです。これからどういう形になるかはまだ分からないけれど、こういう豊かな日常の中で、自分の表現について考えていきたいです」。今は時間をかけて、まちに浸透してきたところ。ここでどういう表現ができるか、考えているという。

楽しいよ！



勝さんのお気に入り



中心市街地

アーティストが暮らすユニークなアパート

「ここがあったからこそ、別府を魅力的に感じました、僕は別府に根を張ることができました」そう言って胸を張る勝さんが住むのは「清島アパート」。審査によって選ばれる8名のアーティストが、アトリエ兼住居として入居している。「ここで色々な人が出会ったり、繋がったりしてきました。僕もその一人です。もっと人が自然と集まるような場所にしていきたいな」と勝さん。

移住データ

移住歴:5年
職業:画家
以前の居住地:東京都
移住のきっかけ:制作活動の場として
居住エリア:中心市街地
木造アパート
(築約60年、2R+共有のキッチンとリビング)

2009年に別府市内で開催された芸術祭をきっかけに移住した勝 正光さん。アーティストが共同生活を送る「清島アパート」に住んで、今年で6年目になる。「着いてすぐに、ここはいいぞ！と、直感的に思ったんです。その後東京に戻る用事があったんですけど、その時にはもう家を引き払って来てしまいました」

>移住者<

かつ まさみつ
勝 正光さん(32歳)

豊かな日常の中で、
自分の表現を
考えながら

